

# 県内図書館紹介

## 大迫町立図書館

### 概要

大迫町は高山植物の宝庫早池峰山を仰ぐ、面積246.6km<sup>2</sup>、人口7000人弱の町です。また、文化および産業面では、縄文遺跡や国指定重要無形民俗文化財の早池峰神楽の伝承、ブドウ栽培とそれを活用したワイン醸造などの特色があります。

町の図書館の構想は大正末期に大迫小学校長菅原隆太郎によって提唱され、当人が館長を兼任することによって実現しました。その後幾多の変遷を経て、この度、アンケート調査や利用者の意見聴取をふまえた町民待望の独立館が完成し、昨年10月にオープンしました。



### 川縁に建つ端整な図書館

新図書館は旧早池峰ダム建設事務所を改装したもので、白鳥も訪れる稗貫川縁の木々に囲まれた閑静な郊外にあり、洒落た木造平屋建（延べ床面積490m<sup>2</sup>）の本館と別棟の閉架書庫、BM車庫から成り立っています。広い前庭を通り館内に入ると正面に電算システムを備えたカウンター、その右手が閲覧室で、母親が我が子を見ながら趣味・育児関係の本を探せるように一般書、児童書、絵本の各コーナーや積み木を置いたテーブルを配置するなどの工夫がなされています。その他、ミニギャラリー、AVコーナー、ラウンジ、学習室、資料室、多目的室を備えるなど小さいながらも一通りの図書館機能を果たせるように造られています。

利用者が気軽に足を運び、この施設を書斎として読書や調査を行ったり、図書館を介して相互の交流を図ったりすることで心の豊かさを感じ取っていただけるように願って運営に当たっております。閲覧室に図書2.6万冊、ビデオテープ800本、雑誌22誌、新聞5紙、貸出用パソコン10台を備え、別棟の閉架書庫には町内を中心にした古文書や郷土資料、過年度の新聞などを分類保管し、利用者の求めに応じています。また、移動図書館車『たんぼぼ号』は町内の保育所や小中学校など22ヶ所のステー

ションを毎月1回ずつ巡回し、団体貸出や個人貸出の業務に当たっています。この時も携帯端末機の活用によってスムーズに行えるようになり、利用者および学校関係者から喜ばれています。定例事業としては、読み聞かせや季節の行事および自然とのふれあいを主とした『おはなしてこい』、親子を対象にした映画会『アニメファンタジー』、活動しながら日常の不思議を解き明かす『館長と調べよう』、主に町民の特技を紹介する『ミニギャラリー展』の開催などです。これらの業務に非常勤の館長、常勤の司書1名および臨時職員が当たっています。

新たにオープンするに当たって改善されたことは、電算システムの導入により窓口業務や資料の検索がスムーズになったこと、開館時間を午後6時まで延長したこと、利用体験を望む声を受けてパソコンの館内貸出を初めたこと、返却ポストの設置や施設のバリアフリーへの対応などです。利用者の皆さんからは、「書架間が明るく広くゆったりしていてじっくりと本を選べる。」「友達とインターネットやビデオ鑑賞ができて楽しい。」という声が寄せられている反面、床に座って読める場所やもっと多くの新しい本を欲しいという要望もあります。職員一同、これらの声に励まされて読書人口の拡大、図書館を介した人々の交流の緊密化をより一層図っていこうと誓っています。



### 課題

町民の意向把握とそれを選書に反映させる工夫、図書館の日常業務や事業を通じて利用者および町民の交流を深める工夫、環境整備を含めた施設の保守管理などにより『町民の書斎』『心のオアシス』としての図書館の実現を図って参りたいと考えています。そのためには、人口の少子・高齢化が続く財政的・人的制約がある中でボランティア活動と一体になった運営体制の確立が重要になってきています。